

地域変革のためのヒアリングシート（利用者から見た地域の状況）

【1】利用者が参加・所属している地域組織または参加したがっている組織について

組織の名前は？	地域の卓球クラブ
どの程度の「参加」か？	以前は週1回必ず参加していたが、就職してから辞めてしまった
参加しやすい条件整備がなされているか？	好きな卓球ができることや、年配者の方から可愛がられていたので楽しく参加していた
どういう条件が整えば、もっと参加しやすくなるか？	卓球をしたいという気持ちが芽生えれば参加するかもしれない

＜注＞自治会・趣味グループ・学校・ファンクラブ・生涯学習グループ・
各種〈連続〉講座・ボランティアグループ

【2】利用者の交友相手〈友達〉について

どんな関係の人	養護学校時代の友人
利用者の資源になりうるか	学生時代は-緒に映画を観に行くこともあったが、今はお付き合いがない
どうしたら資源になるか	久しぶりに会って話ができれば、以前のようなお付き合いができるかもしれない

＜注＞井戸端会議の相手・同窓生・趣味友達・講座友達・級友・

【3】利用者が所属している当事者組織について

どんな組織に属しているか	某就労継続支援B型事業所
利用者同士の問題解決のために十分機能しているか	利用者自治会があり、生活のルールや利用者同士の関係のあり方等について話し合いをしている
もっと機能するためには、どういう支援が必要か	話せる友人は数人いるが、遠慮しがちなところがあるため、仕事ばかりでなく、レクリエーションを通して関係性が深められるよう支援する
利用者はどんな役割を果たしたらいいか	事業所を利用する仲間として、楽しみを共有し、助け合う
その組織は利用者にとってどんな意味があるか	母の希望で就職を目指していたが、就職することに強い抵抗を示していることが浮き彫りとなり、豊かな生活について考えるようになった

【4】利用者に（福祉的に）関わっている人や組織・企業〈商店〉・隣人について

どんな関わりをしてきているか	コンビニなどで買い物することができるが、母と一緒に出かけることが多い
もっとすすんだ関わりをしてもらうには、どんな条件が整備されたいのか	社会性を広げるため、一人で自由に外出することができたらい
こちらとしてどんな努力をしたらいいか〈どんな仕掛けを施したらいいか〉	まずは一緒に外出して楽しみを共有し、興味関心を広げていく

<注>行きつけの商店の主が、店頭で親切にしてくれる程度でもいい。

【5】利用者が見込んでいる相手〈相談に乗ってくれたり、困った時助けてくれる人〉

行きつけの商店・診療所の医師・隣人について

その利用者が見込む相手はどういう条件があるのか	某就労継続支援B型事業所の担当職員は、作業がうまくいかないときや困ったときに親身に相談に乗ってくれる
利用者が見込んでいる人が、見込まれたことをきちんとしているか。	引っ込み思案なところがあるので、不安そうなときは担当職員から声かけをしている
していないとすれば、それはなぜか	本人のペースに合わせて、時に見守ることも必要
見込まれたことをその人が実行するには、どういう働き掛けが必要なのか。	本人の内面の葛藤を理解し、言葉では表出されない気持ちを汲めるようにSVを行う

<注>なぜその人を見込んでいるのか。

【6】利用者の親族で、利用者が頼みにしている相手について

その相手は、利用者の期待に添うように行動しているか	休日は母と一緒に買い物に出かけることもあるが、時々うっとうしいと思うこともある
していないとすればそれはなぜか	心配のあまり関与しすぎ、なところがある
どうしたら期待に添うように行動するようになるか	本人が成長していることを理解できれば気が楽になるのではないか
他の親族はなぜ頼りにならないのか	以前はよく家族旅行に出かけていたが、最近本人が行きたがらなくなったので、父が寂しそうにしている
どうしたらもっと頼りになる親族になるのか。	できることには口出しせず、任せるなど大人として認める

【7】利用者の〈これから戻る〉近隣は、利用者にとっていい近隣か。

どのように頼りになるか	卓球クラブでは皆から可愛がられていたので、楽しくて仕方がなかった。また卓球が大好きで石川佳純のファン
どのように頼りにならないか	以前一緒に卓球をしていた人がいるかはわからない
どんな人材が存在しているか〈世話焼き・口利き・など〉	年配の方が一緒に練習してくれたり、休憩時間にたわいもないおしゃべりをするのが楽しかった
もっと頼りになる近隣にするにはどうしたらいいか	卓球クラブに参加するのもいいかと思うので、見学に誘おうかと思う

【8】利用者の周囲で、活用できそうな地域資源はあるか。

どんな資源が分布しているか〈いわゆるボランティアや民生委員、福祉推進員だけでなく、世話焼きさんや、保健福祉のプロ、各種公共機関なども〉	某就労継続支援B型事業所のサービス管理責任者と連携し、作業以外のレクリエーションへの参加を通して興味関心を広げていきたい
それぞれどんな資源性を持っているか	事業所の利用を通して、安心の中で人との付き合いや興味を広げ、社会とのつながりを増やしていくきっかけとなる
それぞれ利用者にどんな資源になりうると思うか	豊かな生活が送れるようになる
それらの資源を利用者に振り向けるにはどんな仕掛けが必要か	事業所内で卓球をすることができれば地域の卓球クラブとつながるかもしれない
それぞれがより強力な資源になるには、どんな仕掛けが必要か	利用者にとって事業所が地域との接点となっていることを理解してもらえるようにする

【9】利用者にとって「隠れた資源」となっているもの〈利用者を元気にさせているもの〉について

あるとすればそれは何か	・卓球クラブ(参加している年配者の方) ・養護学校時代の友人
-------------	--------------------------------

<注>特に動植物や自然環境、日常生活の各種グッズ、遊び・スポーツなど、人間以外の資源に着目。

【10】利用者は地域に対して、どんな資源性を有しているか。

資源性とそれが機能している対象を羅列	卓球クラブ
利用者が頼りにしている相手に対して、どんな資源性を発揮しているか	以前は卓球クラブに所属し大会に出場することで、家族が応援に来ていた(喜んでいた)
利用者が潜在的に有している資源性は何と何か	体を動かすこと、卓球をすること
それぞれ誰に対して資源となりうるか	好きなことに取り組んでいる姿を見ると家族が安心する
利用者の資源力を増強させるには、どんな支援が必要か	好きなことを増やしていけるよう、いろいろなことを体験してみる

＜注＞隣人の相談相手、同じハンディを持った人の相談相手、趣味グループなどで、ユニークな働きをしている、など。

【11】利用者にとっての資源同士のネットワークの状況はどうか。

これまで挙げられた資源相互の連絡はどの程度なされているようか。お互い〈資源同士〉、その利用者に関わっていることをどの程度承知しているようであるか	現在は卓球クラブとのつながりはないが、辞める際にいつでも戻ってきていいよと言われた
もっときちんとネットワークができるためには、どんな支援が必要か	卓球をやりたい気持ちがあるようなので、参加を急ぐのではなく、卓球のどこが好きかなど話を聞くことから始める

【12】利用者の自宅〈居住場所〉は、

資源を発掘・活用するのにどのように適しているか、または適していないか	駅まで歩いて10分程度であり、近隣には商店街がある
より多くの資源を発掘・活用するために、どんな環境整備が必要か。〈利用者のセルフケアマネジメント能力の開発。自宅の改造。支援者の確保。資金援助など〉	いろいろなことを経験し、生活の幅を広げていく。家族は本人を認め、見守っていけるよう支える

【13】利用者のセルフケアマネジメント能力〈自分の状態を正確に把握・ハンディの中身も客観的に把握・その克服策の工夫・必要な資源を発掘・活用する資質等〉の評価をしてみよう。

セルフケアマネジメント能力の評価	控えめだが、自分の意思を伝えることができる。養護学校時代は卓球部に所属し全国大会に出場したほどの腕前である
------------------	---

＜注＞人に好かれる〈人が寄って来る〉・自分も人が好き・人の好き嫌いが無い・困ったら困ったと言える・だれにも気軽に助けを求めることができる・助け手を上手に探し出す・お礼の言い方・仕方も上手・人間関係に長けている。自分もお返しができる・自分の〈他人に〉できることを上手に生かす・自分の意思をきちんと伝えられる・コミュニケーション手段を持っているし使える・どこへでも気軽に出かける・人を呼び込む場〈空間〉を確保している・セルフケアマネジメントのための支援者〈秘書？〉を確保している